

「看護学科新入生宿泊研修の効果」

—参加した学生への質問紙調査結果からみた効果と課題—

本吉美也子^{*}、矢野芳美、永谷智恵

名寄市立大学保健福祉学部看護学科

【要旨】 新入生が早期に大学生活に順応し、仲間や教員との関係作りがなされ、看護を学習するイメージがもてることを目的として、宿泊研修を企画実施し、その効果について質問紙調査を行い効果を検討した。調査対象は宿泊研修に参加した看護学科新入生 53 名と上級生 61 名、計 114 名である。調査の結果、新入生の満足度は高く、当初の目的は概ね達成された。また企画・運営を担った上級生も、新入生と親睦が図れ、達成感ももっていた。しかし、新入生と教員の親睦が十分図られていない、スケジュールが過密である、参加したい催しに参加できない上級生がいたなど、課題もいくつか残った。次年度からは今回の経験を踏まえて課題を改善し、新入生と上級生の交流を意義のあるものとして継続的に発展させ、新入生が看護を学ぶよりよいスタートの場としていきたい。

キーワード： 宿泊研修、質問紙調査、新入生、上級生、看護学科

1. はじめに

1. 研究背景

新入生にとって、大学生活において共に学ぶ仲間との関係作りはその後の学習を効果的に進めていく上で重要である。また看護師は特に他者との関係性のもとに実践していく職業であり、教育課程においても、他者との連携について学ぶ機会が多い。またそのような関係性を築けるようになることは看護学生の学習の課題でもある。

大学の新生を対象とした宿泊研修に関するアンケート調査を行った研究では、合宿型研修を「学生・教員とも有意義」と評価している報告(仲間ら, 2010)や、新入生合宿は研修において能動的に参加できる条件を整えることで、学生の有意義感が高まることを明らかにしている(梅沢ら, 2013)報告がある。

また大学の新生に対する合宿によって、学生たちの相互理解が深まり満足感が表明され、意識が積極的な方向に向いたなどの成果も報告されている(香川ら, 2011; 社会福祉学会 1 回生クラス主任教員, 2005)。さらには看護大学新生に対して大学教育への円滑な導入を図るためには、まず仲間との人間関係作りを行い、その後に学習技術の習得を目指

すことが効果的であり、それには合宿が有効であることも橋本ら(2010)は示している。

本学の学生はその9割以上が名寄市外出身であり、自宅を離れ初めて一人暮らしを開始する。そのような不安な環境の中、一日も早く仲間作りがなされ大学生活に順応できるよう、看護学科においては例年、上級生(新2年生から新4年生)、特に新2年生が中心となり新入生オリエンテーションと歓迎会が学内で実施されていた。これらを通し新入生は、大学生活の情報を得たり、新しい仲間や先輩と知り合う機会となっていた。

一方、看護学科に進学してくる多くの学生は将来看護師や保健師になることを目指し意欲的に学習に取り組んでいるが、中にはそれらの職業に対してイメージがつかず、自己の希望との間にギャップが生じ、学習意欲が継続せずに挫折してしまう学生もいる。そこで本学においては、平成28年度からの新しい試みとして、新入生が初年次から専門分野に対する興味関心を高め、看護実践の基本的能力を養い自己の課題を明確化していくことを目標とした専門基礎演習が開講された。この科目は少人数でのグループ活動が中心となり展開されるが、このような学習活動を効果的に進めていくには、仲間や教員との関係性の構築が重要となる。

そこでこの専門基礎演習の授業に先立ち、仲間作りにより新入生がいち早く大学生活に順応し、看護を学ぶことに対してイメージづくりが出来、興味関心をもって学習に取り組めることを目的に、例年実

2016年11月21日受付：2017年1月20日受理

^{*}責任著者

住所 〒096-8641 北海道名寄市西4条北8丁目1

E-mail : motoyoshi@nayoro.ac.jp

施している新入生オリエンテーションと新入生歓迎会も組み入れた 1 泊の宿泊研修を実施することにした。そこで看護学科初の取り組みとして実施する宿泊研修により、新入生は早期に仲間や教員との関係作りがなされ、看護を学習するイメージができ、大学生活に順応することにつながったのかを、アンケート調査の結果から検討する。そこから今後の課題を明らかにし、次年度以降の研修をより効果的な内容に改善する足がかりとしたいと考えた。

2. 宿泊研修の主な内容とねらい

2 日間の宿泊研修は、入学後、4 日目から 5 日目の週末にかけて実施され、プログラムは上級生主体のものと、教員主体のものに大きく 2 つで構成されている。上級生主体の主なものとしては、これまで学内で上級生が中心となって主体的に取り組んできた初日のプログラムである新入生へのオリエンテーションと歓迎会である。新入生へのオリエンテーションは、キャンパスツアーに加えて、学習に関するものとして、各授業の学生の感想・評価などを科目ごとにまとめ、新入生へのガイドブックとして上級生が作成した授業案内（通称「裏シラバス」）による各履修科目の案内や、科目選択のヒント、臨地実習の実際や注意点などである。また生活に関するものとしては、一人暮らしやアルバイト、部活動についての情報提供などを盛り込み、これからの大学生活がイメージできる内容になっている。さらに例年学内の食堂で実施していた上級生（主に 2 年生）主催の新入生歓迎会も、夕食後宿泊施設内で開催され、チーム対抗でゲームを楽しみ新入生間だけではなく、上級生や教員とも親交が図れる内容となっている。

一方教員主体の主なものは、初日は学内で実施される新入生の自己紹介および各看護領域の魅力についての紹介と、宿泊施設では上級生と教員が一堂に会し夕食を共にする交流会の開催である。さらに 2 日目には「看護とは何か？」について 2 年生リーダーにファシリテーターを務めてもらいグループでディスカッションし、その内容をまとめて意見を共有する時間も設けた。これは仲間と交流をしながら、これから学ぶ看護への興味関心を高め、看護観の育成に向けて働きかけていことをねらったものである。さらにこの後フリーの自己紹介タイムも設け、これまでにまだ一度も話しをしていない同級生と自己紹介をし合うことで、見知らぬ者同士の出会いのきっかけを作った。さらに宿泊研修の最後には名寄市内の見学（北国博物館・天文台）も組み入れ、新入生

にこれから暮らす名寄を知ってもらう機会とした。

（表 1）

このように準備段階から上級生の協力も得ながらプログラム内容を検討し構成していった。なお宿泊施設は、大学の隣町約 30 km にある美深町の研修施設とした。

表 1 宿泊研修の主なスケジュール

| | 場所 | 上級生主体のプログラム | 教員主体のプログラム |
|------------|------|---|---------------------------------------|
| 1 日目 午前 | 学内 | ・2 年生リーダーによるキャンパスツアー | ・宿泊研修について ・新入生自己紹介 ・看護学科各領域の紹介 |
| 午後 | 宿泊施設 | オリエンテーション -上級生からのアドバイス- ・上級生作成の授業案内（裏シラバス）による履修科目の内容や科目選択のヒント ・臨地実習の内容や注意点 ・一人暮らし情報、アルバイト情報、部活動情報 ・教員紹介 歓迎会 ・上級生・教員とチームを組む各種ゲームで親交を深める ・自由空間フリートークスペースの確保 | ・夕食交流会（教員と新入生・上級生参加） |
| 2 日目 午前 | 宿泊施設 | | ・「看護とは何か？」についてのグループワーク ・フリー自己紹介タイム |
| 午後 | 市内 | | * 市内見学ツアー ・北国博物館 ・天文台 |

3. 参加者の構成と役割

参加学生は新入生全員 53 名と上級生 61 名、計 114 名である。

学生企画プログラムの主体は 2 年生 50 名全員であり、オリエンテーション係と歓迎会係のリーダー各 5 名、計 10 名を募り、その他の学生は 2 つの係に別れてリーダーをサポートした。リーダーはそれぞれのプログラム内容の企画や、資料作成などを中心となって担当した。その他上級生リーダー（3 年生 9 名、4 年生 2 名）は 2 年生リーダーのアドバイザー役として希望者を募り構成した。

学生主体の各プログラムへは 2 年生リーダーおよび上級生リーダーは全員参加とし、リーダー以外の 2 年生は開催場所の関係からオリエンテーション係は

オリエンテーションのみ、歓迎会係りは歓迎会のみ
の参加となった。なお2年生リーダー10名は宿泊し、
2日目のプログラムにも参加している。

参加教員は原則看護学科全教員26名であり、専門
基礎演習担当教員13名と学生委員1名は宿泊もとも
にしている。それ以外の教員12名はそれぞれの都合
に応じて各プログラムへ参加している。

II. 研究目的

宿泊研修により、新入生にとって早期に仲間や教
員との関係作りがなされ、看護を学習するイメージ
もでき、大学生活に順応することにつながるのか、
その効果を検討し、今後の課題を明らかにする。

III. 研究方法

1. 研究デザイン

無記名自記式質問紙調査法

2. 対象

調査対象は宿泊研修に参加した看護学科新入生53
名と上級生61名、計114名。

3. データの収集

新入生用・上級生用の2種類の質問紙調査用紙を作
成し、宿泊研修終了後に対象者に実施し収集(平成
28年4月8日～16日)した。

新入生には主に宿泊研修の効果と感想に関する28
項目の選択式設問と2項目の自由記述、上級生には
実施したオリエンテーションや歓迎会の適切性と参
加した感想に関する16項目の選択式設問および3項
目の自由記述欄で構成した。選択式回答の内容は「と
てもそう思う、どちらかというそう思う、どちらと
もいえない、どちらかというと思わない、そう
思わない」の5段階である。なお上級生へは、オリ
エンテーションと歓迎会のどちらかの参加、または
リーダーとしての参加など、役割に応じた項目への
回答を求めているため、設問項目によって回答者数
は異なっている。

4. データの分析

質問紙調査で得られた量的データは、単純集計し
パーセント表示した。自由記述部分は記述された内
容で類似するものをまとめた。

5. 倫理的配慮

研究の実施にあたり調査対象者には次のことを配
慮した。研究への参加は自由意志に基づくものであ
り、協力しないことで一切不利益を受けないこと、

研究の途中でも協力を取り止めることが出来、それ
により何ら不利益を被ることがなく、成績にも一切
影響しないこと。調査は無記名で行い回答の提出に
よって調査への協力を同意したとみなすこと。調査
結果の発表に際しては、協力者のプライバシーの保
護には万全を尽すこと。得られたデータは鍵のかか
る戸棚に厳重に保管し、自由記述部分の紙媒体等の
資料は研究終了後破棄することを口頭と書面で伝え
た。

IV. 結果

1. 新入生の回答結果

新入生は53名全員から回答が得られ回収率は
100%であった。なお、集計結果のパーセント表示は
小数点第1位で四捨五入している。

質問項目の中で「とてもそう思う」と回答した割
合が高かった項目はく上級生の授業案内(裏シラバ
ス)は参考になった>52名(98%)<上級生はグル
ープワークを適切にリードしてくれた>49名(92%)
<宿泊研修は来年の新入生にも勧めたい>48名

(91%)<全体を通して同級生と親しくなることが
できた>46名(87%)<新入生の自己紹介はお互い
に知り合う上で参考になった>45名(85%)<上級
生の大学生活についての説明は参考になった>45名
(85%)<全体を通し看護に興味関心が高まった>
45名(85%)<楽しかった>45名(85%)であった。
逆に「とてもそう思う」と回答した割合が比較的
低かったのはく夕食会では教員と親睦を深めること
ができた>13名(25%)<歓迎会では教員と親睦を
深めることができた>11名(21%)<北国博物館の見
学は有意義だった>8名(15%)であった。(表2)

自由記述をまとめた中で多かった意見・感想で「こ
れからの大学生活や看護を学ぶ上で特に参考になっ
たこと」に関してはく裏シラバスで履修登録の要領
がよくわかりとても役立った>30名<看護を考え
るグループワークは難しかったが、他の人の考えを
いろいろ聞け、自分の『看護』についての考えが広
がった>12名であった。「研修全体を通しての感想」
で多かったのはく先輩が優しく声をかけてくれたり、
盛り上げてくれたり、いろいろ話ができて安心でき
た>21名<2日間の研修で今まで話したことのない
人とも仲良くなることができた>19名<すごく楽
しい2日間だった>18名<研修前までは不安だった

| 質問文 | n=53 | | | | | 人数 (%) | | | | |
|----------------------------------|--------|--------|--------|------|------|--------|----|----|---|---|
| | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 1.新入生の自己紹介はお互いに知り合う上で参考になった | 45(85) | 8(15) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 45 | 8 | 0 | 0 | 0 |
| 2.教員による看護学科の各領域紹介は看護を知る上で参考になった | 40(75) | 11(21) | 2(4) | 0(0) | 0(0) | 40 | 11 | 2 | 0 | 0 |
| 3.上級生の大学内案内は学内を知る上で参考になった | 43(81) | 9(17) | 1(2) | 0(0) | 0(0) | 43 | 9 | 1 | 0 | 0 |
| 4.上級生の授業案内(裏シラバス)は参考になった | 52(98) | 1(2) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 52 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 5.上級生の実習についての説明は参考になった | 43(81) | 10(19) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 43 | 10 | 0 | 0 | 0 |
| 6.上級生の大学生活についての説明は参考になった | 45(85) | 8(15) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 45 | 8 | 0 | 0 | 0 |
| 7.上級生の教員紹介は興味深かった | 32(60) | 19(36) | 2(4) | 0(0) | 0(0) | 32 | 19 | 2 | 0 | 0 |
| 8.夕食会では同級生と親睦を深めることができた | 28(53) | 17(32) | 8(15) | 0(0) | 0(0) | 28 | 17 | 8 | 0 | 0 |
| 9.夕食会では上級生と親睦を深めることができた | 30(57) | 19(36) | 4(8) | 0(0) | 0(0) | 30 | 19 | 4 | 0 | 0 |
| 10.夕食会では教員と親睦を深めることができた | 13(25) | 20(38) | 16(30) | 2(4) | 2(4) | 13 | 20 | 16 | 2 | 2 |
| 11.歓迎会では同級生と親睦を深めることができた | 40(75) | 11(21) | 2(4) | 0(0) | 0(0) | 40 | 11 | 2 | 0 | 0 |
| 12.歓迎会では上級生と親睦を深めることができた | 44(83) | 8(15) | 1(2) | 0(0) | 0(0) | 44 | 8 | 1 | 0 | 0 |
| 13.歓迎会では教員と親睦を深めることができた | 11(21) | 17(32) | 18(34) | 5(9) | 2(4) | 11 | 17 | 18 | 5 | 2 |
| 14.グループ活動には積極的に参加できた | 26(49) | 20(38) | 7(13) | 0(0) | 0(0) | 26 | 20 | 7 | 0 | 0 |
| 15.グループでのディスカッションは活発だった | 29(55) | 22(42) | 2(4) | 0(0) | 0(0) | 29 | 22 | 2 | 0 | 0 |
| 16.上級生はグループディスカッションを適切にリードしてくれた | 49(92) | 3(6) | 1(2) | 0(0) | 0(0) | 49 | 3 | 1 | 0 | 0 |
| 17.グループ発表は適切にまとめられた | 30(57) | 22(42) | 1(2) | 0(0) | 0(0) | 30 | 22 | 1 | 0 | 0 |
| 18.グループワークにより看護への興味関心が高まった | 43(81) | 10(19) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 43 | 10 | 0 | 0 | 0 |
| 19.最後の新入生スピーチは興味深かった | 16(30) | 28(53) | 8(15) | 1(2) | 0(0) | 16 | 28 | 8 | 1 | 0 |
| 20.宿泊研修全体を通して同級生と親しくなることができた | 46(87) | 7(13) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 46 | 7 | 0 | 0 | 0 |
| 21.宿泊研修全体を通して看護に興味関心が高まった | 45(85) | 8(15) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 45 | 8 | 0 | 0 | 0 |
| 22.宿泊研修全体を通して大学生活への不安が軽減した | 40(75) | 13(25) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 40 | 13 | 0 | 0 | 0 |
| 23.宿泊研修は来年の新入生にも勧めたい | 48(91) | 5(9) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 48 | 5 | 0 | 0 | 0 |
| 24.自分が上級生になった時、宿泊研修にリーダーとして参加したい | 16(30) | 21(40) | 16(30) | 0(0) | 0(0) | 16 | 21 | 16 | 0 | 0 |
| 25.宿は宿泊研修の施設として十分なものだった | 35(66) | 15(28) | 3(6) | 0(0) | 0(0) | 35 | 15 | 3 | 0 | 0 |
| 26.宿泊研修は楽しかった | 45(85) | 8(15) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 45 | 8 | 0 | 0 | 0 |
| 27.天文台の見学は有意義だった | 22(42) | 21(40) | 8(15) | 2(4) | 0(0) | 22 | 21 | 8 | 2 | 0 |
| 28.北国博物館の見学は有意義だった | 8(15) | 26(49) | 15(28) | 4(8) | 0(0) | 8 | 26 | 15 | 4 | 0 |

5 とてもそう思う 4 どちらかというと思う 3 どちらともいえない 2 どちらかというと思わない 1 そう思わない

が、いろんな人と話ができよかった>11名であった。(表3)

2. 上級生の回答結果

上級生(2年生から4年生)61名中49名から回答が得られ、回収率は80.3%であった。

新入生オリエンテーションに関わった上級生25名の回答で「大変そう思う」または「そう思う」という肯定的な回答が合わせて80%以上だったのは、<オリエンテーション用に作成した資料の内容は適切だった>23名(92%)<授業案内(裏シラバス)は効果的に実施できた>22名(88%)<実習説明は効果的に実施できた>20名(80%)<大学生活の説明は効果的に実施できた>21名(84%)であった。次いで肯定的な回答が高かったのは<教員紹介は適切に実施できた>19名(76%)<大学案内は効果的に実施できた>18名(72%)であった。

同様に歓迎会に関わった上級生26名の回答項目で「大変そう思う」または「そう思う」という肯定的な回答が高かったのは<新入生は楽しんでた>

表3. 新入生の自由記述のまとめ(抜粋)

| これからの大学生活や看護を学習する上で特に参考になったと感じたこと | |
|---|-----|
| 代表的意見 | 人数 |
| 裏シラバスで履修登録の要領がよくわかり役立った。 | 30名 |
| 看護とは何かを考えるグループワークのテーマは難しかったが、他の人の考えをいろいろ聞くことが出来てよかった。自分の『看護』についての考えが広がった。 | 12名 |
| 先輩からサークルやバイトのことをたくさん聞いたことがよかった。 | 8名 |
| 実習についての先輩の説明が具体的でわかりやすくイメージがついた。 | 6名 |
| 先輩のようにいろんな人と積極的に交流を深めること。 | 5名 |
| そのほか2日間の研修全体を通しての意見・感想 | |
| 代表的意見 | 人数 |
| 先輩が優しく声をかけてくれたり、盛り上げてくれたり、いろいろ話ができ安心してとても楽しかった。 | 21名 |
| 2日間の研修で今まで話したことのない人とも仲良くなることができてよかった。 | 19名 |
| すごく楽しい2日間だった。 | 18名 |
| 研修前までは不安だったが、いろんな人と話ができとても楽しく過ごすことができた。 | 11名 |

表4. 上級生の回答

| 質問文 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|--|---------|---------|---------|--------|--------|
| * 新入生オリエンテーションに関わった上級生の回答 n=25 人数 (%) | | | | | |
| 1. 大学オリエンテーション用に作成した資料の内容は適切だった | 22 (86) | 1 (5) | 2 (9) | 0 (0) | 0 (0) |
| 2. 大学内案内は効果的に実施できた | 15 (59) | 3 (12) | 7 (28) | 0 (0) | 0 (0) |
| 3. 授業案内 (裏シラバス) は効果的に実施できた | 17 (68) | 5 (20) | 2 (8) | 0 (0) | 0 (0) |
| 4. 実習についての説明は効果的に実施できた | 15 (60) | 5 (20) | 5 (20) | 0 (0) | 0 (0) |
| 5. 大学生活についての説明は効果的に実施できた | 17 (68) | 4 (16) | 4 (16) | 0 (0) | 0 (0) |
| 6. 教員紹介は適切に実施できた | 10 (40) | 9 (36) | 4 (16) | 2 (8) | 0 (0) |
| 7. オリエンテーション会場は実施場所として十分なものだった | 17 (68) | 4 (17) | 4 (17) | 0 (0) | 0 (0) |
| * 歓迎会に関わった上級生の回答 n=26 人数 (%) | | | | | |
| 8. 歓迎会の内容は適切だった | 19 (73) | 7 (27) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) |
| 9. 歓迎会は効果的に実施できた | 19 (73) | 7 (27) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) |
| 10. 歓迎会で新入生は楽しんでいた | 15 (58) | 11 (42) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) |
| 11. 歓迎会では新入生と親睦を深めることができた | 16 (62) | 7 (27) | 3 (12) | 0 (0) | 0 (0) |
| 12. 歓迎会会場は実施場所として十分なものだった | 16 (62) | 6 (24) | 3 (10) | 1 (5) | 0 (0) |
| * 上級生共通の質問への回答 n=47 人数 (%) | | | | | |
| 13. この研修は来年の新入生にも勧めたい | 21 (45) | 14 (30) | 7 (15) | 4 (9) | 1 (2) |
| 14. この宿泊研修を通して新入生と親しくなることができた | 19 (40) | 18 (38) | 8 (17) | 1 (2) | 1 (2) |
| 15. 来年も宿泊研修にリーダーとして参加したい (4年生以外) | 11 (24) | 8 (17) | 16 (34) | 6 (13) | 5 (11) |
| 5 とてもそう思う 4 どちらかというと思う 3 どちらともいえない 2 どちらかというと思わない 1 そう思わない | | | | | |

で100%を占め、<親睦を深めることができた>が23名(89%)であった。

また宿泊研修全体に関する上級生共通の質問項で47名から回答があり「大変そう思う」または、「そう思う」と回答したのは<新入生と親しくなる

ことができた>37名(78%)、<来年の新入生にも進めたい>35名(75%)であった。逆に「大変そう思う」または「そう思う」と回答したものが少なかった項目は<来年もリーダーとして参加したい>の19名(40%)であった。(表4)

自由記述で多かった意見として、「2日間の研修全体を通して、上級生として参加してよかったと感じた」ことについては<新入生と仲良くなれた、話ができたとこと>14名であった。「参加してみて改善したほうがよいと思うこと」では<1年生の自己紹介が全員聞ける状態だったらよかった>7名、「大変だったところや、うまくいかなかったこと」では<リーダーの負担が大きく大変そうだった>7名であった。(表5)

表5. 上級生自由記述のまとめ (代表的意見の抜粋)

| *2日間の研修全体を通して、上級生として参加してよかったと感じたこと | |
|-------------------------------------|-----|
| 代表的意見 | 人数 |
| 新入生と仲良くなれた、話ができたとこと。 | 14名 |
| 経験したことを伝えることができよかった。 | 4名 |
| 上級生として振り返るきっかけになった。 | 4名 |
| 新入生が自分たちのやったことで楽しんでくれたこと。 | 3名 |
| *参加してみて改善したほうがよいと思うこと | |
| 代表的意見 | 人数 |
| 1年生の自己紹介が全員聞ける状態だったらよかった。 | 7名 |
| 実習説明はもう少し短くてほしい。 | 4名 |
| 全員が歓迎会に参加できるようにしたほうがもっと親近感や交流が深まる。 | 4名 |
| スケジュールをもう一度見直したほうが良いと思う(教員紹介の時間など)。 | 3名 |
| *宿泊研修の準備で大変だったことや、うまくいかなかったこと | |
| リーダーの負担が大きく大変そうだった。 | 7名 |
| 情報の滞りなど各係りの連携がうまくできなかった。 | 3名 |
| 春休みの帰省でみんな揃うのが難しかった。 | 3名 |

V. 考察

1. 新入生の調査結果から

この度の調査結果から、今年度からの試みである新入生宿泊研修では、新入生へ向け早期に仲間や教員との関係作りがなされ、看護を学習するイメージができ、早い時期に大学生活に順応することが出来ることにつなげる、という当初の目的は概ね達成できたといえる。その中でも大きな役割を担っていたのは上級生の存在であった。

上級生が作成したオリエンテーションで用いられた裏シラバスは新入生から高く評価されており、これを用いて授業の内容を楽しく紹介したことで、こ

れから始まる大学での授業内容や履修登録についてイメージすることが出来ていたと思われる。まだ仲間との関係性が構築されていないこの時期に、履修届や選択科目の決定などの期限が迫って決定しなければならない事柄についての情報は特にニーズが高かったものと思われ、先輩から大学生活をイメージできる情報を得ることが出来たのは安心感にもつながったであろう。

さらに 2 日目のグループワークにおいては、「看護とは」というテーマで上級生（2 年生）がファシリテーターとなって新入生をリードしていった。新入生から先輩が優しく声をかけてくれたり、盛り上げてくれたり、いろいろ話ができて安心できとても楽しかった」という意見が多くあったように、このグループワークを通してこれまで漠然と考えていた看護についてイメージづくりがなされただけでなく、宿泊研修全体を通して先輩達のリードが頼もしく感じられ、ロールモデルとしての役割を果たしていたと考えられる。佐久間ら（2015）は看護学部において実施した新入生セミナーでの先輩のかかわりは「大学生」としての役割モデルを認識させ、あたたかく迎えられた経験が、正のスパイラルとなって次年度の学生へ伝承されることを報告している。この研修においても上級生のあたたかいかわりは、次の新入生を迎え入れる自発的な活動へも継承されることが期待される。

2. 上級生の調査結果から

前述のように新入生はこの宿泊研修での上級生の働きを高く評価していたが、また参加した上級生も実施した内容から新入生に対して、看護を学ぶ上でイメージができるような授業や実習など、大学生活についての説明が適切かつ効果的に実施できたと感じていた。

歓迎会では 2 年生リーダーが春休みから現場の下見を含めて念入りに準備を進め、結果として、新入生を楽しませ、親睦が深まり親しみをもつことができた実感できていた。

小林ら（2010）は大学で対人専門職を目指す学生を対象にした宿泊研修において、企画運営を上級生に任せたことでリーダーシップの育成に効果があったことを報告している。本学の上級生リーダーも準備段階から、普通の授業では見ることの出来ない活き活きとした姿を垣間見ることが出来、積極的に企画の運営にもあたっていた。このような宿泊研修は、新入生への効果だけではなく、リーダーとしての活

動を通して 2 年生リーダーは責任感を培え、それぞれの内面的成長にも好影響を与えることが期待される。

3. 今後の課題

新入生の調査結果から、夕食会や歓迎会で「教員と親睦を深めることができた」と感じていたものは少ないことが示された。これは夕食会の参加者は総勢 130 名を超え、1 テーブルに新入生、上級生、教員を配し交流を図ろうと考えたが、1 テーブルが 13 名以上の構成となり、会話を交わすには人数が多すぎた感がある。またバイキング形式であったことや大人数であったことから着席にも時間がかかり、夕食会全体として十分な時間が取れなかったことも親睦を深めることが出来なかった要因と考えられる。

歓迎会においても、会場の関係から教員の参加人数が限られ、実際に教員と交流をもつことができた新入生は多くはなかった。これらのことから、夕食会の人数や歓迎会会場の見直しなど、なるべく多くの教員が参加して、より親睦を深められる機会を設ける工夫が必要である。

また、2 日目最後の市内見学を有意義と感じていたものは他の項目と比して低かった。これは 2 日間の宿泊研修のスケジュールは過密であり、さらに入学間もない時期であり、緊張による疲労も蓄積しがちであるためと思われる。また施設見学に先立ち、学生がこの地域をより理解出来るような事前のオリエンテーションも不足していたことが満足度を高く出来なかった原因とも考えられる。したがって今後は新入生の疲労度も考慮したスケジュールの組み立てと、施設見学実施の際には、意味づけができるような事前の十分なオリエンテーションを行うことが必要である。

上級生の調査結果では「1 年生の自己紹介が全員聞ける状態だったらよかった」という意見が少なかつた、これは例年学内で実施する上級生（主に 2 年生）主催のオリエンテーションでは新入生の自己紹介を聞くことで上級生が出身地や出身校を知り、同郷の学生に親しみをもって接する機会となっていた。上級生は毎年 1 年生が入学してくるのを楽しみにしており、出来る限り新入生との接点をもつ機会が欲しいと考えていると思われる。そのため、新入生の自己紹介は多くの上級生が聞くことのできるタイミングで実施することが望ましいと考える。

またオリエンテーション同様、歓迎会も2年生が主体となり例年実施していたが、今年度は会場の関係もあり、2年生リーダー以外は各担当の係りのプログラムのみの参加となり、リーダー以外の学生にとっては、担当ではないプログラムがどのように行われているのか伝わらなかった現状があった。そのため今後は希望者全員が参加できる歓迎会となるよう企画の検討が必要である。

さらに自由記述からは「リーダーの負担が大きく大変そうだった」という意見も聞かれ、次年度にリーダーとして参加したいと回答したのも40%にとどまっていた。実際リーダー達は充実感や達成感があった反面、2年生リーダー10名は春休み返上で企画検討・パンフレット作成などの準備に追われていた。従って、もっと早期から準備を進め、なるべく多くの2年生が企画運営にかかわれるよう協力体制を作ることで、リーダーの負担も減り、実施した達成感を多くの学生で分かち合うことが出来ると思われる。

VI. おわりに

平成28年度から専門基礎演習という新しい科目の開講に先立ち実施された宿泊研修は、新入生の満足度も高く、当初の「新入生が早期に仲間との関係作りがなされ、看護を学習するイメージができ、大学生活に順応することが出来る」という目的については概ね達成された。また企画・運営を担った上級生も、新入生と親睦が図れ、企画運営への達成感ももっていた。しかし今回実施したことで初めて気づけた課題も明らかになった。新入生と教員の親睦が十分図られていなかったこと、スケジュールがやや過密であったこと、参加したい催しに参加できずにいた上級生がいたこと、リーダーへの負担が大きかったこと、などである。来年度からはこれらの課題を改善できるよう今回の取り組みを踏まえて、プログラムを見直していきたい。そして学生数が少ない小規模な大学であるからこそ学生間、教員間のコミュニケーションが取りやすい環境にもあるため、それを活かした新入生と在校生のあたたかい交流を意義のあるものとして継続的に発展させ、新入生が看護を学ぶよりよいスタートの場としていきたい。

謝 辞

この度の宿泊研修に利用させていただいた施設のスタッフの皆さんは、事前打ち合わせの時点からこの研修の目的を理解していただき、自由度のある各施設設備の利用や食事内容の充実、当日の学生送迎など、限られた予算の中でこちらの意図をくみ取り、多くの配慮をしていただいた。成功の一端は宿泊施設のご尽力によるところも大きく、深く感謝申し上げます。

文 献

- 橋本佳美, 弓削美鈴, 田中高政他(2010)看護大学生への初年次教育プログラムの検討 導入基礎演習からの一考察. 佐久大学看護研究雑誌, 2巻1号, 29-39.
- 香川貴志, 荻野雄(2012)新入生合宿研修の設計と実践—2011(平成23)年度 社会領域専攻の事例—. 京都教育大学環境教育研究年報, 第20号, 161-174.
- 小林久美, 谷口幹也, 伊豆千栄美他(2010)教育および学習方法改善への取り組み—学び合い高め合う仲間づくり研修会の効果—. 九州女子大学紀要, 47巻1号, 61-76.
- 仲間正浩, 上間陽子, 西岡尚也, 片岡淳(2010)琉球大学教育学部新入生合宿研修の実施の準備と結果について—2009年の実施結果とアンケート集計—. 琉球大学教育学部教育実践総合センター紀要, 17号, 143-154.
- 佐久間佐緒, 山村江美子, 入江拓他(2015)看護学部における新入生セミナーの活動. 聖隷クリストファー大学看護学部紀要, 23号, 1-9.
- 社会福祉学科 1 回生クラス主任教員(2005)研究記録 社会福祉学科新入生合宿オリエンテーションの意義と効果. 神戸女子大学社会福祉学会『社会福祉学研究』, 第9号, 85-103.
- 梅澤秋久, 佐藤高樹(2013)初年次教育における合宿研修の意義と課題—帝京大学教育学部初等教育学科初等教育コースの事例から—. 帝京大学教育学部紀要 1, 3-21.

Research report

The effects and problems of a workshop with overnight stays for first year nursing students.

- A questionnaire survey of students -

Miyako MOTOYOSHI^{*}, Yoshimi YANO, Tomoe NAGATANI

Department of Nursing, Faculty of Health and Welfare Science, Nayoro City University,

Abstract: In this study we conducted a questionnaire survey to evaluate the effects of a workshop with overnight stays for first year nursing students. The workshop was planned for the students to be better able to accommodate themselves to university life by establishing relationships with other students and instructors, and to convey ideas about nursing study. The questionnaire was administered to 114 students of the nursing science course: 53 first year students and 61 senior students. The results show that the satisfaction level of the first year students was high, indicating that the purpose of the workshop was generally achieved. The senior students who were in charge of planning and implementing the workshop also felt satisfaction by establishing friendships with the new students. However, there were also problems that became clear as some seniors reported that good relationships between the new students and instructors was not promoted strongly enough, the schedule was tight, and as some senior students were not able to participate in the event. For the future, we aim to improve the workshop paying attention to the problems experienced this time, to make the exchanges between the new students and seniors more meaningful, and to utilize the workshop as a more effective opportunity to start nursing study.

Key words: workshop with overnight stays, questionnaire survey, first year students, senior students,
department of nursing